

平成19年度 川崎市黒川青少年野外活動センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	特定非営利活動法人国際自然大学校
(2) 指定期間	平成18年4月1日 ~ 平成21年3月31日
(3) 業務の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の管理運営及び維持保全に関すること ・施設設備の利用許可及び提供に関すること ・主催事業の企画実施に関すること ・青少年教育行政、市政及び地域行政への協力に関すること ・施設の設置目的に沿った施設の有効活用と利用促進に関すること ・その他、仕様書に定める指定管理業務に関すること

2 管理運営(事業執行)に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
① 運営管理にのぞむ基本姿勢	<p>利用団体からプログラムを立てる際の相談を受け、施設の特徴を生かしたプログラムの紹介やアドバイスを行った。また、要望に応じて、レクリエーションや野外活動などの指導も積極的に行った。教育委員会とは、日頃から連絡・相談・報告を行い、年4回の指定管理者の報告義務に基づき、文書等の提出を行った。</p>	<p>青少年野外活動施設としての基本理念を十分に理解し、利用者が活動しやすい施設となるように努めている。</p>
② 施設の活用方法と提供できるサービス	<p>センターのボランティアグループとして「黒川自然案内人クラブ」を組織した。子どものキャンプ、親子アウトドア教室、味噌作り、山の手入れ等積極的にセンターの主催事業のボランティアとして、子ども達に指導を行っていただいた。</p> <p>恵泉女子大学のゼミで、野外炊飯の体験、日本映画専門学校での撮影場所の提供、明治大学のホタルの数を調査するゼミでの利用等があり、自然体験フェスティバルの際にボランティア参加を積極的に申し出てくれた。夏の指導者(引率者)のためのプログラム体験会では、保育士を目指す学生の参加があった。</p> <p>また、神奈川県キャンプ協会の講習会、日本アウトドアネットワーク、東京都キャンプ協会のフォーラムにおいて、関東周辺のキャンプ場の情報等を提供し、野外活動の情報センターとしての取組を行っている。</p>	<p>ボランティアグループを形成して、地域の大人が積極的に関わってもらえる仕組みをつくるなど、地域との連携に努めている。</p> <p>施設の有効活用について、近隣の大学と連携して学生研修の場として、また、野外活動の情報センターとしての機能への取組など、積極的に取り組んでいる。</p>

<p>③ 施設の利用促進策</p>	<p>ドラム缶を用いたピザ焼き、石焼きも、ドラム缶風呂、竹細工等を新規に作った。センターでおこなうことの出来るプログラム開発を行い、職員の指導のための研修も行った。</p> <p>利用者の受入整備に関しては、マニュアルを作成したり、備品表の改訂、駐車カードの作成、受付ファイルを作成するなど、利用者が使いやすいように工夫を図った。また、宿泊利用者には、パワーポイントを使い、オリエンテーションを行っている。</p> <p>広報は、センターのHPを見て連絡をくれる方の割合が増えてきた。市政だより、ミニコミ誌、タウン誌への掲載依頼や、チラシに写真等を多く使い、事業のイメージをつかんでもらえるよう工夫を行った。ブログを毎日更新することでアクセス数が伸びてきている。</p> <p>利用団体に、日帰り・宿泊で分けてアンケートを取り、集計してその結果をもとに改善を図った。また、主催事業でもアンケートを取り、内容や料金設定、時期等利用者のニーズの把握に努めた。</p>	<p>立地や設備を活用した提供プログラムを開発するなどの工夫が行なわれている。</p> <p>広報についても、ホームページによる情報提供や、マスコミを活用したPRなどの工夫が行われ、また、アンケートを実施し、それを基に改善を図るなど利用促進に努めている。</p> <p>広報の成果について、事業計画時に一定程度の目標を立てて、その達成度を測る必要がある。</p>
<p>④ 施設の利用に関する業務</p>	<p>利用の申し込み及び申請期間は、従来通りの日程で行っているが、夏休み期間については、川崎市内の青少年団体の事前仮予約期間を設け、日程調整は話し合いにより、なるべく融通をきかせ多くの団体が利用できるように職員が立会い調整をかけるようにした。</p> <p>利用当日の受け入れについては、受付ファイルを作成したことで、スムーズに行うことができた。貸し出し用の備品についても、利用者が分かりやすく、返却方法までを記載した掲示を行った。オリエンテーションを行なうことで、利用者全員との意志の疎通が図られて、お互いに気持ちよく使ってもらえるようになった。(利用者アンケート意見)</p>	<p>施設の利用実態を充分勘察し、受付を行っている。また、受け入れ時のオリエンテーション等、より利用者に理解しやすくする工夫をすすめるなど、施設をよく理解した運営が行われている。</p>
<p>⑤ 自主事業</p>	<p>子どもたちが気軽にセンター内で遊べるように、センターの竹を利用した竹馬、竹ポックリ、土手滑り用にソリを置くようにした。各アクティビティについては、対象年齢や実施時間、人数や備品等様々な条件の中で、利用者の求めるもの、ニーズを意識しながらセンターで行うことのできるプログラムの幅を広げている。ドラム缶ピザは、センターの大人気プログラムとなり様々な利用団体に対して指導を行った。センターの竹を利用したクラフトを考案し、利用者に楽しんでもらうことができた。(2月24日事業実施後のアンケート意見)また、質の高い指導が行えるように、職員の研修にも力を入れている。</p>	<p>利用者がより楽しめる遊具の開発や設備の設置を自ら行うなど、経費負担を最小限にした事業実施が行われている。</p> <p>従来からの主催事業の着実な実施とともに、指定管理者として独自に企画した事業も積極的に実施されている。</p> <p>また、質の高い指導が行えるように、職員研修に努めている。</p>

<p>⑥ 施設及び設備の維持管理</p>	<p>日常の清掃作業では手の行き届かない部分の清掃や高所・設備の保守点検等を専門業者へ委託することで、職員は安心して施設運営へ力を入れることが出来た。</p> <p>所管課と相談し、計画的に備品の入れ替え、購入、修繕等を行っている。警備は引き続き同じ業者へ委託し、今年度、警備会社のリース契約で、AEDを施設に設置した。職員はその使用方法等の講習を受けたことにより、利用者へ使用方法を的確に伝えられるようにした。</p> <p>利用者各自に清掃を呼びかけ、どこまでの清掃をお願いするのかを明確にするために、「清掃チェックシート」を各部屋ごとに作成。受付ファイルと一緒に渡し、その際に使い方を説明している。そのチェックシートをもとに、退所時に職員と一緒に点検をしてもらうように改善を行った。</p>	
<p>⑦ 危機管理</p>	<p>緊急時の対応についてのミーティングを行い、役割等の確認を行った。夜間の利用団体のみになってしまう時間帯の対応として、緊急時の連絡先表を渡し、当日の担当職員の連絡先を告げるようにしている。</p> <p>安全対策チェック項目については、職員、ボランティアスタッフと読みあわせを行った。また、職員会議内で事業ごとに確認を行っている。</p>	<p>危機管理について、職員間で日常の申し送りや安全対策チェック項目の確認など情報共有が行われている。</p> <p>引き続き、指定管理者として防災・危機管理において、全体の状況を統括する体制を整えること。</p>
<p>⑧ 業務委託（再委託）</p>	<p>警備、清掃業務・施設点検、整備・害虫駆除等を専門業者に委託している。</p> <p>業務実施後の検査については、報告書の提出を義務付け、それを基に職員立会いのもと、実施業者とともに現場確認を行っている。</p>	<p>業務終了後の検査について、職員による現場確認が実施されているなど、適切に行われている。</p>

<p>⑨ 雇用職員及び職員配置</p>	<p>所長1名と他に常勤職員として2名が、団体のプログラム指導や、事業の企画・運営、日々の管理運営業務を行っている。また、事務職員として、非常勤職員が1名おり、計4名体制で行っている。</p> <p>今年度は、夏の主催キャンプ、自然体験フェスティバルの際に国際自然大学校本部へ要請し、応援体制を組んだ。</p> <p>利用者にとって魅力ある施設及びプログラムを提供するために、プログラム指導の後には、必ず自己評価を行い、所長や他の職員からのフィードバックを受け、日ごろからの切磋琢磨を心がけた。また、パッケージプログラムの講習会や、火起こし、川崎市で行われる青少年教育施設職員向けの研修等に参加し、スキルアップを図った。また、キャンプ協会、清里ミーティング、CONEフォーラム等の野外活動指導者の集まる催しに参加し、様々な情報を取り入れたり、顔を繋げることができた。</p>	<p>昨年度同様の職員体制で日常の運営を行い、必要に応じて、本部から応援を入れるなど効率的かつ柔軟な職員体制がとられている。</p> <p>また、事業実施に必要な研修を積極的に取り入れて、職員の専門性の向上が図られている。</p>
<p>(2) 利用状況</p>		
<p>① 利用状況</p>	<p>総利用団体数:560団体 延べ利用者数:22,845人</p>	<p>引き続き利用者の増加に努めること。</p> <p>事業計画時に一定程度の目標を立てて、その達成度を測る必要がある。</p>

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
<p>(3) 収支状況</p>																																
<p>① 収支状況</p>	<p>(単位 円)</p> <table border="0"> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>22,250,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主催事業参加費収入</td> <td>984,550</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>243,599</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>23,478,149</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>15,468,017</td> </tr> <tr> <td></td> <td>光水熱費</td> <td>1,260,479</td> </tr> <tr> <td></td> <td>委託費</td> <td>2,812,530</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>3,815,300</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>23,356,326</td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td></td> <td>121,823</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	22,250,000		主催事業参加費収入	984,550		その他	243,599		合計	23,478,149	支出	人件費	15,468,017		光水熱費	1,260,479		委託費	2,812,530		その他経費	3,815,300		合計	23,356,326	差引		121,823	<p>昨年度同様に収支の均衡が図られた。引き続き、安定した管理運営を継続すること。</p>
収入	指定管理料	22,250,000																														
	主催事業参加費収入	984,550																														
	その他	243,599																														
	合計	23,478,149																														
支出	人件費	15,468,017																														
	光水熱費	1,260,479																														
	委託費	2,812,530																														
	その他経費	3,815,300																														
	合計	23,356,326																														
差引		121,823																														

(4) その他		
① 苦情処理・説明責任・自己評価・満足度調査 (利用者からの意見・要望等への対応)	<p>苦情へはいち早く取り組み、職員全員がその情報を共有できるようミーティングを行った。</p> <p>宿泊利用者には、パワーポイントを使い、オリエンテーションを行った。また利用者に、日帰り・宿泊で分けてアンケートを取り、集計してその結果をもとに改善を図った。</p> <p>事業後、利用者のアンケートを職員で共有し、また事業後、利用団体へのプログラム指導後は必ず自己評価と、他の職員からのフィードバックを受けるようにしている。次回に繋がる改善点を見出し、職員全員が同じ情報を共有できるようにしている。</p>	<p>利用者の意見を十分に聞き、その情報を職員全員が共有するなど、利用者の満足度を高める努力がなされている。</p>
② 個人情報の保護及び情報公開	<p>主催事業を行う際の、個人情報はその事業内でのみの使用とし、ボランティアスタッフに配布した名簿等は事業終了時の回収を徹底した。センターのHPやブログに使用する写真は、必ず本人(未成年の場合には保護者)に確認の上での使用するよう職員会議で周知徹底を行った。</p> <p>年4回の指定管理の報告義務に基づき、経理・庶務その他報告を所管課に送付している。センター、野外活動に関わる情報については、センターHP、ブログ、センター内掲示、パンフ、所報等で提供、公開している。</p>	<p>個人情報の保護及び情報公開には、十分に配慮されている。</p>

3 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

<p>指定管理者の本部からの応援や多数のボランティアスタッフの動員により、人的支援体制を充実させるなど柔軟な人的配置を行い、全てのスタッフが野外活動について十分な経験と知識を持っているため、より専門性の高い指導・支援が実施できた。また、利用者の意見を十分に聞き、その情報共有を職員全員で行うなど、更なる市民サービスの向上に努めている。</p> <p>収支状況についても、利用料金を徴収しない無料施設であるが、収支の均衡が保たれている。</p>

4 平成20年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

<p>運営面については、事業計画を基に一定程度の目標を掲げ、事業の達成度が客観的に分かるようにすること。また、利用者の増加に向けて、黒川の自然環境を十分に活用した事業のより一層の充実に努めること。</p>
--